

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発売している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、有限会社 山崎マーク 代表取締役 manto代表 HOGET代表 山崎 秀平様から「地域の第一印象になる～地域の魅力と事業を掛け合わせて、ワクワクする場をつくる～」と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。





地域の第一印象になる

～地域の魅力と事業を掛け合わせて、ワクワクする場をつくる～

寄稿 山崎 秀平

はじめに

はじめまして。有限会社山崎マー
クの代表、山崎秀平と申します。
西海市で刺繍やロゴマークを、
衣類に加工する仕事をしています。
私たちの会社のこと、新しく立ち
上げた地域交流拠点HOGET
(ホゲット)のこと、そして西海市のこ
とを知っていただけると嬉しいです。

私の家業

幼いころ、自分の家が何の仕事
をしているか、よくわかっていません
でした。

山崎マークと聞いて、仕事内容が
パツと思いつく人は、ほとんどいな
いと思います。

山崎マークの「マーク」とは、マーキ
ング、印しじをつけるという語源からきて
います。つまり、商品に文字やロゴ
マークを付加し、オリジナルのアイテ
ムを作ることが私の家業です。

創業のきっかけは、創業者である

Profile



有限会社 山崎マーク 代表取締役
manto 代表 やま さき しゅうへい
HOGET 代表 **山崎 秀平**

1978年 長崎県西海市西海町生まれ
1997年 長崎日本大学高等学校
デザイン美術科卒業
2001年 九州産業大学芸術学部
ビジュアルデザイン科卒業
有限会社山崎マーク入社
2016年 mantoをオープン
2020年 地域交流拠点HOGET
(ホゲット)オープン

山崎マーク



manto



HOGET



は人と設備を増やし、成長をしてい
きました。

父が農業の傍らミシンを購入し、
見よう見まねで名前の刺繍を始めた
ことです。手先が器用だったのでミシ
ンに向いていると考え、農業とミシン
の二重生活をしばらく続けたのち農
業をやめ、刺繍(マーク)一本で商売
する決断をします。

当時、刺繍やマークは、ユニフォー
ムを買ってくれたお客様への無料
サービス、おまけ的な扱いで、それが
商売になるとは誰も思っていなかった
ようです。

しばらくするとスポーツブームの
波に乗り、お客様のニーズも多様化
すると、それに対応するために会社



創業時の風景



この頃に今の事業の基礎となる刺繍、プリント、転写の技術を習得していききました。

毎年春には、学校のジャージに刺繍を入れる仕事があり、家族総出で、夜中まで手伝っていたことを思い出します。

私を含む兄弟3人は、父がミシンで縫った刺繍の糸を切る係でした。

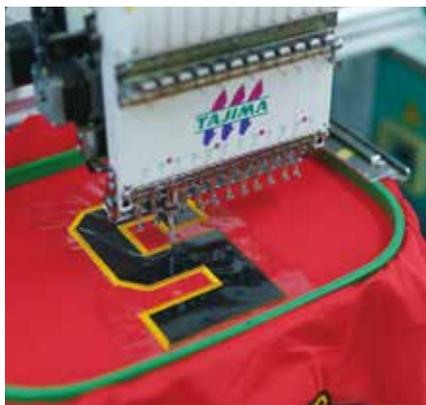
面白いと思えるまでに、 10年かかった

私は高校、大学でデザインを学び、卒業後そのまま会社に入社しました。

当時の私の仕事は、パソコンを使ってデザインをしたり、機械で印刷物などを出力する仕事をしていま



本社外観



本社作業風景

制作実例



た。日々忙しく仕事をこなしていき
ましたが、単調な繰り返しで正直、
やりがいを感じることはありません
でした。

そんな中、友人から仕事を依頼さ
れることが少しずつ増えてきました。
打ち合わせの時「お前の会社、なん
でも作れていいよね」と言われて、ハッ
としました。

これまでB to B（企業間取引）
が中心で、お客様と直接話をした
り、感謝をされることが少なかった私
は、自社が持っている価値によりやく
気づくことができました。

それからミシンやプリント体験が
できるキットを持って積極的にイベ
ントに出店し、山崎マークの仕事を
知ってもらおう活動をスタートさせま
した。

mantoのオープンと 万津6区のまちづくり

イベント出店を続ける中、マークを
体感できるリアルな場を作りたいと



manto外観



イベント出店風景



考え、お店をオープンする計画を立
てました。

マークや刺繍に気軽に触れるこ
と、なんでも相談できて、つくる気持
ちを後押しすることをコンセプトに
して、2016年、佐世保市万津町
にmantoをオープンしました。

店の周辺は、若いオーナーの個性
的なお店が集まっているユニークなエ
リアです。

古い街並みも残っていて、新しさと
懐かしさが交錯するまちという一面
もあります。

店舗営業をしながら、商売をして
いるメンバーや地域の方と、エリアを
盛り上げる活動に参加し、イベント
を実施しました。個々のお店の「点」
が繋がりに、「面」としての魅力に広
がっていく動きにワクワクしまし
た。今この一帯は万津6区と名付
けられ、新しい観光スポットとして
注目されています。この時の体験が
HOGETを構想するひとつのきっ
かけになりました。



西海市のこと

佐世保市でエリアを盛り上げる活動をする中、ふと地元・西海市のことを思いました。

これまでも地域の活動や、地元商工会のイベントなどにも参加してきましたが、どうしても単発で終わってしまい、活動が広がっていきませんでした。

そこで、自分なりに西海市の良さを伝える別の方法がないか、模索をはじめました。

西海市が元々持っている素材に、少し編集を加えることで魅力が伝わるのではと考え、無人島でテントサウ



テントサウナポスター



古民家(改装前)



おんじやんおんばやん

ナを企画したり、仲間と地域のおじいちゃんおばあちゃんが作った農産物とグッズを売るプロジェクト(おんじやんおんばやん)をはじめました。活動をしていく中で、西海市の魅力は他の地域に劣らないこと、しかしまだ伝わっていない、そもそも西海市のことを知らない人が多いということを実感しました。

同時期、会社前の古民家を取得することになり、ここを地域の交流拠点にできないか検討をはじめました。

HOGETの立ち上げ

古民家を再生させて、地域のコミュニティスペースを作ることには、すでに全国の様々な地域での事例があり、それをそのまま当てはめても意味がありません。

今回は、民間企業である山崎マークが運営するという点も大切な要素でした。

そこで大きく3つの目標を立てました。

①「西海市らしさ」と「山崎マークらしさ」を掛け合わせる。
②ボランティアではなく、事業として成立させること。

③西海市、地域コミュニティを活性化
する活動をする。

まちづくり、地域コミュニティ形成の部分では、外の力も必要と判断し、山崎マーク、建築家、編集者、まちづくり活動家でプロジェクトチームを結成しました。

ハード、ソフト両面からイメージを膨らませて、この場所では何をやるのか(そもそもやる必要があるかを含め)約1年をかけて、チームでじっくり話し合いを行いました。

私のまだ具体化できなかった構想を、丁寧に言葉や形に落とし込んでくれたプロジェクトチームにも感謝しています。西海市に元々あるもの、今ないものを整理し、HOGETがやるべきこと、必要な機能を絞り、今の形になりました。

拠点の名前は、西海市の国指定史跡ホゲット石鍋遺跡に由来します。



石鍋の持つ、素朴で、プリミティブ（原始的）な魅力と西海市のイメージを重ね、地域に根付くものづくりの精神を、現代のものづくり企業である山崎マークも大切にしていきたいという想いから、この名を旗印にすることにしました。

リノベーションの過程では、2回のワークショップを実施しました。

地域内外の人に、HOGGETが誕生する過程から関わってもらい、思い入れのある場に育ってほしいという



ホゲット石鍋遺跡



ワークショップ風景



願いを込めて企画をしました。結果たくさんの方に参加していただきHOGGETに命が吹き込まれました。

機能と役割

● CAFE HOGGET

幅広い世代が交流できるようにカフェを運営しています。

地域の人にとっては、日常の安らぎや交流スペースとしての活用、地域外の人にとっては、観光の途中に立ち寄り、西海市を知る場所として機能します。

併設している物販スペースには、山崎マークの技術と地域の加工品を掛け合わせたオリジナルのお土産を増やしました。カフェ横には、子どもたちが駆け回れる芝生スペースもあり、屋外でのイベントにも対応できます。

● シェアスペース

（ものづくりスペース）

山崎マークが持っているマークの技術を、一般の方にも知っていただくた

いという思いから、UVプリンタという機械を設置しています。

「つくる思い出」というコンセプト



UVプリントサービス

で、西海市内で撮影した写真（スマホなど）を、その場でキャンバスに印刷して、お渡しするサービスを展開しています。

また西海市に関連する作り手たちと一緒に「さいかいクラフトライフ」というものづくりイベントを開催



©YASHIRO PHOTO OFFICE



©YASHIRO PHOTO OFFICE



©YASHIRO PHOTO OFFICE



©YASHIRO PHOTO OFFICE

西海市の地域拠点 HOGET

し、「自分たちの手で作る楽しさ」を伝える活動を進めています。

●体験民宿事務所

(山と海の郷さいかい)

西海市で民泊・自然体験事業を営む「山と海の郷さいかい」のオフィスがあります。

観光冊子には載っていないローカルなおすすめスポットやおみやげ、事前予約なしで参加できる体験などのご案内が可能です。

移住に関する相談や、アウトドアイベント、ワークショップなど、HOGETと共同でイベントを企画し、西海市の魅力を発信しています。

●イベント

西海市の魅力を知るきっかけになるように、月1回程度、市内のクリエイター、企業、飲食店と連携し、イベントやポップアップストアを実施しています。3ヶ月に1回情報誌を発行して、西海市の知られざる人や魅力にフォーカスし、HOGETらしい視

点で地域を編集していく予定です。

コロナでも立ち止まらない

物事を動かすときには、タイミングというものがあると思います。

このプロジェクトは、このタイミングで実行したことは、間違いではなかったと感じています。新型コロナウイルスが世界中に蔓延している中で、飲食業を含めた新規事業をすることは、確かにリスクが伴います。しかし地域やコミュニティが分断されている今だからこそ、人と人が交わる場が求められると考えています。

まちの第一印象になる

魅力的な地域には、まちの第一印象になる場所が必ずあります。

人と同じで、第一印象が良ければ、他のスポットにも行ってみようかなと思ってもらえるはず、HOGETはそういう場を目指しています。

これから西海のウズシオのように、



色々なヒト、コト、モノが混じり合い、私たちの知らないところでも、様々なドラマが生まれるでしょう。

小さな出来事がたくさん起きはじめると、地域が少しずつ変化をしていくはずですよ。

しかし課題もあります。西海市内に、魅力的なお店(個店)がまだまだ少ないことです。

もし起業を考えている人がいたら、HOGETを活用したイベントなどで、できる限りサポートしていきたいと思っています。西海市のように面積が広く、明確な中心部がない町は、各地域をつないで、面として情報発信をしていかなければなりません。

今後について

人口減少や社会情勢を憂えても、私たちの町は何も変わりません。

行政は、今できる範囲の中で業務をしていると思いますし、UターンやIターン、移住者は、地域に変化と気

付きを与えてくれます。

地域に欠けているものがあるとしたら、この地にずっと住んでいる私たちが、主体的に地域をどうするか考え、自律して行動することではないかと感じています。

そして何より、自分たちが楽しんでやれることが大切だと実感しています。

もしHOGETをきっかけに、何かをやりたい、表現したい人たちがいたなら、声をかけ伴走する存在でありたいです。

まだ実現できていないことも多いですが、自分自身楽しみながら、地域が少しずつ変化し「西海市って、面白いよね」と言ってもらえるように努力を続けていきます。

みなさん、ぜひ遊びに来てくださいね。

デジタル技術を活用した新たな取り組み

話を山崎マークに戻しますが、私たちの加工技術をより身近に感じてもらいたいという思いから、2022年秋に、スマートフォンを活用したアプリ「My sewingマイソーイング」をリリースしました。このアプリは、お客様自身のスマートフォンから刺しゅうをカスタム、シミュレーションし、その場でミシン加工するというものです。

第一弾は、西九州新幹線開業に合わせて、かもめをモチーフに各イベントへ出店しました。

ライブ感あるものづくりをお見せしながら、お客様と直にコミュニケーションをとることができて、大きな手応えを感じています。

今回は新幹線でしたが、モチーフを変えて今後様々な業種とコラボレーションを展開する予定です。

私たちのようなニッチな業種であっても、情報発信とデジタル技術・DXの活用は、今後ますます重要になっていくでしょう。

